

OB

近年の発表から

本学の日本画専攻出身者は日本画壇での活躍は目覚ましいものがあります。近年の主な活躍のうち、いくつかをPICK UP!



湯山正樹 2011年卒業
「地を飛ぶ虫」
第47回日春展 奨励賞



竹内昌二 2014年修了
「陽光の射す中で」
2014京展市長賞



北川由希恵 2014年修了
「移りゆく刻」
第72回現代美術展
最高賞

Q&A

日本画に関してよくある質問

「日本画って?」

本専攻に寄せられる主な疑問・質問のうち、いくつかをPICK UP!

Q 日本画ってなんですか？

A 絵画のうち日本に伝わる技法や視点などの点で非常に優れた要素を備えたものです。美しい石を砕いてつくる岩絵の具や自然と密接に関係した独特な技法を用いて自分の想いを表現してみませんか？

Q 日本画の絵具は高いそうですが
経済的に大丈夫？

A 日本画に使われる岩絵の具はとても美しく魅力的なものです。価格は色によって様々です。各々の表現で使う色が違って来ますが、1年時に購入するセットから始まって徐々に必要な色を揃えていけば問題は
ありません。

Q 自分の作品を発表することは出来ますか？

A はい、勿論。2年次から本格的な日本画制作に取り組んでゆきますが、それらの作品を各種公募展やコンクールに出品し入選・受賞する学生が沢山居ますし、個展やグループ展などでの発表も多くみられます。

Q 卒業後はどんな道がありますか？

A 卒業生は日本画家をはじめ、デザインや工芸家、絵本作家、漫画家…等の他分野での活躍や、小中高校教員、大学教員、美術館・博物館学芸員など様々な分野に進んでいます。

<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

920-8656 石川県金沢市小立野5-11-1
tel.076-262-3531 fax.076-262-6594

平成28年5月

金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

美術工芸学部
美術科

日本画専攻
JAPANESE PAINTING

美術科

日本画専攻
JAPANESE PAINTING

100年後に残る絵画を目指して

美しい岩絵の具、本質を捉えた表現…この国に伝わる日本画と呼ばれる独自の絵画表現は時代とともに幅を広げつつ進化を遂げて来ました。しかしこの表現法の習得には古来よりさまざまな「画派」の存在が示す様に、やる気や根気とともに段階を踏まえた教育が必要でした。本学の日本画では緻密に計算されたカリキュラムで日本画技術の基礎から伝統的表現を経て未来に飛ばたく日本画表現を目指す人材をアシストします。

教員

教授	仁志出龍司	教授	佐藤 俊介
准教授	荒木 恵信	准教授	よしだぎょうこ

非常勤

作家	中路 融人	作家	福本 達雄
作家	土屋 禮一	作家	三輪 晃久
多摩美術大学	米谷 清和	武蔵野美術大学	内田あぐり
装演師	荒木 史	作家	今尾 景之
茶人	大島 宗翠	東京藝術大学	宮廻 正明
愛知県立芸術大学	北田 克己	他	

基礎技術から

表現・発表へ

1年次	■ 精密描写 ・野菜 ・草花 ・岩石 ・鳥 ・魚(鯉) ・小動物 ・自画像 ・手	■ 古典絵画模写 ・白描 ・着彩 ・臨模	■ 他領域実習 映像 デザイン 彫刻I 工芸技法(紙) 郊外写生授業(~4年)	2年次	■ 古典基礎技術 絹本 運筆	■ 基礎表現技術 支持体制作 箔技法 裸婦デッサン(~4年)	■ 課題制作 植物 人物 動物 風景	3・4年次	■ 自由課題制作 裸婦デッサン コンピュータグラフィックス	■ 発表制作 公募展、グループ展、個展等出品制作 各種発表 海外研修旅行(3年or4年) 裸婦デッサン	■ 卒業制作	大学院

基礎描写

岩絵の具や膠など、日本画の画材の扱いは独特で非常に高度な技術が必要です。ここでは静物や生物などを精密描写することで、日本画の基礎的技術やものの捉え方などを学びます。



古典

古典の名作を、その紙や絵具・筆使いの表情までを正確に写し取ることで古典的な技術の基本を学びます。



伝統的基礎技術

金銀の金属箔や絹など古くから伝わる素材とその使い方や表現を学び、自身の作品に活かしてゆきます。



基礎表現技術

日本画制作に必要な基本的技術を学び、ここまで学んだ様々な技法を用いて個々の想いを表現してゆきます。また課題制作として伝統的なテーマをどう自身の表現に反映させるかを学びます。



自由課題制作

自由制作に移り、作品はかなり大型のものも手がけるようになります。伝統に基づいたもののみならず、現代に生きる新鮮な作品制作も手がけます。技術的にも高度な表現に移ってゆきます。



卒業制作

4年間の集大成として、これまでの制作で培った技術や自身の日本画的世界観を表現します。

各種発表

学内展示をはじめ、様々な場での発表を前提にした制作をすすめ、各種公募展などでの入選・受賞をはじめ個展やグループ展などの自発的な場での発表を通して研鑽を積んでゆきます。



〈専攻の特色〉

他領域実習

1・2年次の基礎科目では日本画以外の領域について学びます。それ以外にも、フレスコや版画など他領域についての実習があります。それによって多角的な視野での日本画表現を目指します。

学内展示

全学年で随時、課題作品の発表の場として学内での展示があり展示方法や見せ方も学びます。



学内展示

写生授業・研修旅行

毎年5月に全学年参加の写生旅行があります。行き先は白馬・上高地・戸隠など信州各地。日本画の基本である写生を通して学年間の交流や技術向上を図ります。研修旅行は3年もしくは4年次に国内外の古美術等を見学し、見識を高めます。



郊外写生授業(信州)



郊外写生授業(講評会)



研修旅行(カンボジア)